



## 巻頭言

斎藤 ギルバート & 志摩

神戸の方々と石巻で出会って1年以上になります。岩村先生は英語が達者です。フレンドリーなですぐに石巻在住のフィリピン人たちと仲良くなります。岩村先生が英語で話しかけ、フィリピンの人が日本語で返答している場面を何度も見かけました。思わず笑いをこらえました。去年までクリスマスはフィリピンの人たちが集まるという機会はありませんで

## 2014年、2015年のフクシマ訪問

WEB 神戸国際キリスト教会「牧師の拙論」から

2014年9月、福島県双葉郡の浪江町、双葉町、大熊町、富岡町を訪問。当時、浪江町からの国道6号線は検問が厳しく、防護服でないと入れませんでした。案内役の五百井正浩「真宗大谷派災害対策本部ボランティア委員長」住職、勝村弘也「神戸松蔭女子学院大学」、名誉教授、豊原正尚副住職たちを含む機構のメンバーたちは富岡町から退却している吉田信西(願)寺住職(57歳)と夫人淳子さん(双葉町光善寺出身)の案内で帰還困難区域に行きました。浪江町で予め入村許可をとり、ひとりひとり身分証明書を提示しなければなりません。人づきり一人住んでいない廃墟の街は同じ日本とは思えず、別世界でした。店の看板、道の標識、家は倒れたままです。海岸線は津波に襲われ、大きな船が生い茂った荒野に乗り上げています。真新しい家の付近には牛の大きな糞がころがっています。酪農を営んでいた人たちは強制的に退去を命じられました。家族のように生きてきた家畜を置き去りにしなければならなかった。泣く泣く見捨てた豚が野生化して、イノシシと仲良く

なっていました。飼いがいなくなった牛、豚、鶏は自分で餌を得なければなりません。地震で破損した無人の家のすき間から入り込みます。雨露をしのいだり、餌を探すためにめっちゃめっちゃにしています。保存していた砂糖、塩、植物油などわずかな食品の臭いをかきつけ、イノブタはこじ開けて侵入していました。イノブタ(オスのイノシシとメス豚の混血です。耳は豚のように前に垂れ下がっており、鼻先はイノシシです。イノシシ肉と比べ、臭みがなく、豚より油分が多くてうま味があります。イノシシの5倍の繁殖力があり、一年に2回母親が10頭ずつ出産します。つかまえる箱わなをあちらこちらで見かけます。

イノシシ、イノブタは放射能濃度が高く、食用にはなり



ANN NEWS 2014年3月10日付



2014年9月3日 富岡町にて

ません。国の食用の基準である放射性セシウムが100ベクレル(1kg)に対し、イノブタは3万3千ベクレルと330倍も高いのです。処分される運命です。留守の家をちらかし、糞のためにもう人が住めないほど臭くなっています。天井裏ではネズミが我が物顔で走り回っています。手のつけようがありません。食べ物が無い地を這う動物のうめきが聞こえてきました。

### 植物のうめき

福島県はかつて米所として全国に知れ渡るほどおいしいお米ができました。浪江町、双葉町、大熊町、富岡町の住民が避難している南相馬市は福島第一原発の北8〜40kmに位置します。南相馬市では8400ヘクタールの内、津波により2642ヘクタール(31.5%)の農地がだめになりました。南相馬市の農家は生き残るために安全な米づくりをと試験的に実証栽培に取り組みしました。原町区の相馬太田神社そばに試験水田(実証田)がありました。農林水産省も作付け、水田整地に費用を助成していました。しかし、1kgあたり180ベクレルを超える放射性セシウムが検出されました(「福島民友」2014年7月15日付)。つまり食べると被ばくする放射性セシウムがあるということです。基準値を超えるとコメは売れません。2015年、9割が飼料用として用いられています。生産者は「風評被害」により福島県産を食べてもらえなくなると嘆きます。しかし、福島県農林連の根本敬会長は、「風評」とは根も葉もないことをいう。我々の農作物は根にも葉にも放射性物質を付けられた。実害だ。」と加害責任をあいまいにする用語の使い方を2015年4月13日、福島で開かれた国際シンポジウムで訴えました。農作物である植物もうめいています。



南相馬市の実証田 2014年9月3日



## 第55次東北ボランティア

参加者は済美高校生4人とドイツから帰国した高校生計5人、および大阪市立大学生、南山大学生、社会人2名も参加しています。運転は自衛隊の中隊長であった椿和彦さんです。参加者の小浦拓さん(29歳)は言います。「8月17日に初めて東北の地に降り立ったのが宮城県にある石巻市立門脇小学校でした。周囲を見渡すと家が建っている様子もなく、道も荒れたままなのに対して、ひっそりとお墓だけが並んでいるのが印象的でした。黒い墓石がより違和感を持たせたのかもしれません。門脇小学校は震災から4年が過ぎた今でも手つかずの状態で放置されています。阪神淡路大震災と比較するべきではないのかもしれませんが、復興の速度が違いすぎると感じたのが正直な感想です」。

阿部捷一さんから3・11当時の生々しい体験を聞きます。佐藤金一郎ご夫妻のところに全員あげてもらい歓待を受けます。午後は、希望する4つの班に分かれて、ボランティアに繰り出します。

林ボランティア班は大川小学生たちが植えた大川小学校の隣にある「みやぎバットの森」で汗を流します。その森は楽天球団の選手が使うバットのアオダモの苗木を2005年に植えたことが始まりです。機構は2013年から取り組んでいます。林ボランティア班を現場で指導してくださるのは、木村貞一さん(78歳)です。津波で、姪とその娘さんが石巻市南浜町でいのちをなくしています。木や、自然についてどんな質問もユーモアたっぷりに参加者たちに説明されます。

3日目、8月19日、福島県郡山駅で五百井住職と合流します。福島県を訪



大川小学校

問するに際して、3年連続でお世話になっています。阪神・淡路大震災の時、神戸市長田区の玉龍寺は被災者にとり、避難場所でした。遠洋航路を経て船がやっと見いだす灯台のような働きをされました。五百井住職は後藤由美子僧侶(第20次)と連絡をとり、福島県で子どもを育てる苦悩の母親たちと連帯する働きを展開しています。

### 人間のうめき

双葉郡の多くの方の仮設住宅がある南相馬市でも持つていった線量計の数値は高くなった。一定ではありません。絶えず数字が変わるのは空气中に浮遊している放射線があるからです。27年経たチェルノブイリ近辺では数値は変わりません。一方、日本では風が吹いたり、雨の降り始めには線量はあがります。富岡町では数字は振り切って計ることができない高線量でした。

100万人にひとりと言われる小児性甲状腺ガンにかかる子どもたちの数は12人(2011年6月)→43人(2013年4月)→137人(2015年8月31日)と増えています。しかし、放射能との因果関係が認められないために、障害賠償を受けることはできません。30km圏内でもなくとも、50km離れた地域でもセシウムが6倍です(朝日新聞2014年7月16日付)。子どもは大人よりも3倍の放射能の影響を受けると言われています。しかし、いわき市行政は子どもたちの給食に、風評被害払しょくのためと言いつつ、福島産のものを使うことを強要します。子どもの未来を思う母親たちは、子どもの被ばくをとても心配しています。「子どもだけでも避難させるべきであったことは、今となってはだれでも確信しているでしょう。ところが、国や福島県は、子どもの命の安全よりも、社会の混乱や経済の損失を恐れ、本当の事実を知らせてくれませんでした。子どもたちが国策により被ばくさせられたらと思うのは私だけでしょうか」と武藤恵さんは訴えます。現地のおうめきの生の声を聞くことができました。

武本泰事務局長(子ども脱被ばく裁判の会)は語ります。「福島郡山市の住民なんて

す。適切な情報をもらわなかった、と私は思っているですね。要するに線量が高い、避難しろ、そういうことを国は言わなかったわけですね。安全だから問題ないんだと、それを何度も繰り返して、あるいはマスコミを使って宣伝しました。でその結果、中通りに住む住民にとっては非常に、無用な被ばくをさせられてしまった。そういった意味では国、あるいは県の行政がですね、県民の健康と命を守ってくれなかったと。ある種、行政の背信行為じゃないかという事です。まあ要は行政の不作為だということですね」と。

参加者の済美高校2年生の池上楓さんは報告しています。「いまだに国はこの病気に放射線との関連性を認めません。甲状腺は本来成長ホルモンの分泌をうながす場所。カエルがこの器官を切除すると変態できなくなります。つまりオタマジャクシから姿を変えられなくなるということです。幸い人間は薬を投与することで成長をうながすことができますが、言い換えれば一生薬を飲み続けなければならぬということなんです。福島の医療機関はこうした状況を打破しなければなりません。福島の医療機関のトップ、福島大学病院で原発事故後、病院関係者だけが安定ヨウ素剤を服用していたことが分かりました。安定ヨウ素剤というのは放射性ヨウ素の影響を和らげるもので、つまり放射線被ばくを予防する薬です。注文できる状態にありながら、病院内だけ服用し、県民たちには配付することをしませんでした。医療機関にあらざるこの行為を、私たちは現地で初めて知り、怒りと驚きで言葉が出てきませんでした。国は口々に復興は完了したと述べていますが、それは間違っているでしょう。福島の方々が他県と変わらない日常生活を行えるようになって初めて完了したと言えるのではないのでしょうか。」



郡山公民館 8月19日

株式会社 チュチュアンナ  
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna™

MIYOSHI

ミヨシ石鹸株式会社

〒130-0021

東京都墨田区緑3-8-12

TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



Humanity First

「ヒューマンティ・ファスト」  
日本アハマディア・ムスリム協会

## バナアツにスターフィッシュ・ハウス

究所の南俊治さんは、家をなくした子どもたちや、学校などの施設のために設計図を書きました。現在、その設計図に基づいて、現地の牧師たちが着工しています。「空から見て、ヒトデの形をしたデザインはこの国にぴったりです」とアイザック・ピーター牧師は笑顔で語ります。

南俊治  
建築研

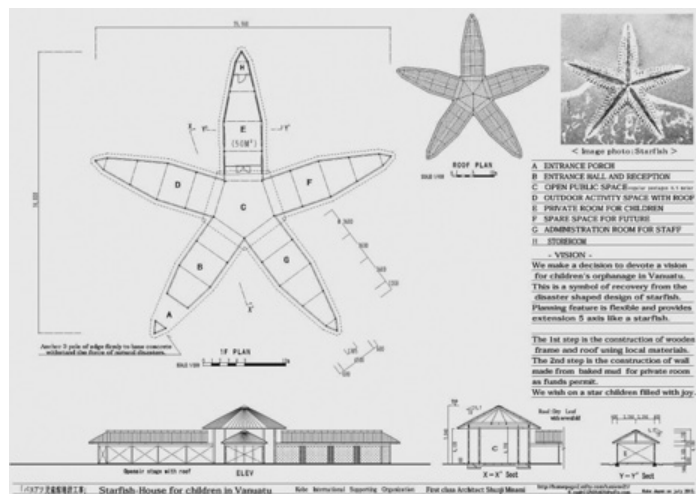
3月15日に襲ったサイクロン「バム」は、南半球オーストラリアの東側にあるバナアツを襲いました。人口24万人のこの国の首都ポートビラ市に神戸国際支援機構は訪問。現地の要望にしたがって、子どもたち、とりわけ孤児のために活動をしていきます。東北ボランティアの復興のために取り組み組んでいた南俊治建築研



バナアツの孤児たち

## バナアツ緊急救援募金

神戸国際支援機構では、東日本大震災に対して500万円も石巻市に支援したバナアツに對するお礼としてサイクロンの被災者救済、とりわけ孤児たちのスターフィッシュ・ハウス建設のために救援金が必要です。現在152万円不足しています。現地のバナアツ大統領たちも期待しています。皆さまのご協力がないと実現しません。救援金期間 2015年末まで



Starfish-House全体図



バナアツ救援募金をアピールする各紙



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL: www.tamanohada.co.jp

法律相談初回無料。  
お気軽にご相談下さい。

**宮永法律事務所**

みやなが たかし まつだ やすお  
弁護士 宮永亮史 弁護士 松田康生

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14

☎0120-997-181

TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

## ネパール緊急救援募金

クリスマス、新しい年を空腹のまま過ごすことのないように皆さまの暖かいご支援をお願いします。

機構は、親や家を失った子どもたちや、ダリット層 Dalit「触れると穢れる人間」と差別されているネパールの貧しい人たちのためクリスマス特別募金を求めています。孤児の施設建設を現地の要請に従い、救援金が必要です。

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズに阪神淡路大震災を上回る大地震発生。死者が8千人を超えています。5月12日、17日に第1次カトマンズ入り。第2次、8月30日、9月7日に、学生たちと現地入り。

**産経新聞**  
平成27年(2015年) 7月6日 月曜日

**今後とも復興支援続ける**

人との会話が苦手、中学2年から自宅に引きこもったが、東日本大震災が発生した際、「自分を変えた」とボランティアに参加。津波被害を受けた田んぼをよみがえらせる活動を続けるうちに、多くの人と交流するようになり、今では積極的に関地の復興支援に携わる。「復興が進むよう貢献したい」と少ない言葉に決意をにじませた。

村上裕隆君 「産経新聞」 2015年7月6日付

特定非営利活動法人  
**みもぞ**

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・  
福祉・教育に関する事業  
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

**本田商会**

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話：0798-38-7560

FAX：0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

**ヤマザキ**  
世界のパン  
**ヤマザキ**

**KINSAN**  
夢に近づく  
夢を産み出す...

**近畿産業信用組合**  
総合コールセンター  
**0120-111-019**



## 鬼怒川水害ボランティア

森 花梨 (第42、50、丹波水害)

本田寿久事務局長をはじめ、村上リーダー、リピーターたち、とりわけ4、5回参加してきた大学生たち西田怜奈さん、本田博之さん、佐野高校生8名など、総勢16人が9月10日の鬼怒川、宮城県大崎市の洪井川の洪水ボランティアに向かいました。参加者のひとり、兵庫県立八鹿高校の垣尾舟汰さんの報告は、KBHのニューズレターにもとりあげられました。

特別寄稿

〔神戸国際支縁機構〕

### 東北ボランティアに参加して

八鹿高校3年生 垣尾舟汰

実際参加した感想ですが、一番大きかったのは、同じ日本に住んでいてここまで知らないことがあるのかということです。私たちは報道やメディアから日々情報を得て過ごしていますが、やはり限界があるのだと強く思いました。門脇小学校での衝撃。みたこともない小学校の状況に思わず息をのみました。画面に囲まれて生活してる現代の若者に、画面や写真からは伝わってこない何かが確実に伝わって来ました。それは僕だけでなく、他に参加していた高校生のみんなも同じ感覚だったと思います。また、私たちは人が何人死んで何人が避難しているという「数字」にこだわりすぎているということに気づきました。人の命は1か0かなのに、それらを累積し規模を推し量る。なんだかそんなことで「すごい大変だ」とか「苦しいだろうな」とかという感情が作られていた自分に腹が立ちました。1人の人間が命を落としていること、その家族や親戚、関係している人の、数字には表せない、悲しみ、苦しみ、悔しさ…。もしかしら言葉にも表せないのかもしれない。そういったことを抜きにして「数字」という普遍的な概念的な事で感情が作られていることを私たちは反省しなければならないと思いました。

何が復興かということも考えさせられました。最初に行った門脇小学校の前で岩村代表がおっしゃられたことが心から離れません。「震災から4年半経ち、今日車でここまでくるときに見たのものは何ですか?イオン、K's電気、多彩な飲食チェーン店、我々が住んでいる街と変わらないものが新しく建ち並ぶようになりました。どうでしょう。今、東北地方は復興していると思いますか?」おそらく、これから日本が「東日本大震災」という歴史を背負っていくのと同じように、僕も代表の言葉を忘れないでしょう。それほど心に響きました。

2日目に向かった栃木県日光市鬼怒川上流では、被災された伊藤直樹さん(80歳)の貴重なお話を聞くことができました。人間はやはり「油断」が命取りになると。誰も大丈夫だと思ってしまうのですね。自分は大丈夫だと思ってしまうことが一番危険だと思い知りました。本当はもっともっと自分の身体を痛めつけて

でも、被災された方の力になりたかったのですが、時間の関係上それが叶わず残念ではありました。順調に作業が進み、少しでも早く被災された方が普通の生活に戻れることを心から願っています。

実際ボランティアという形で作業をしたりする時間は少なかったですが、それ以上に現場に自分で行って、見て、感じて、心が動いたことにとてつもない意味がありました。まさに「忘却にあらがうボランティア」となりました。

今回、神戸国際支縁機構様にご協力をいただき、このような貴重、かつ素晴らしい経験をさせていただいたことに最大限の感謝の気持ちを表したいと思います。長い、長い道のりを運転してくださった、本田寿久事務局長、および大学生の本田博之さん、スケジュールの管理他様々な場面でお世話になった村上裕隆リーダー。たくさん声をかけていただいた、4、5回参加されてきた大学生の西田怜奈さん、森花梨さん。何より、こういった機会を私たちのような者に与えるという活動を創始された、岩村義雄代表。その他、お弁当や現地の活動に協力してくださった皆々様に心より感謝したいと思います。この気持ちは僕自身が近い未来この神戸国際支縁機構の活動に協力することで、恩返ししたいと思っています。是非それまでこの素晴らしい活動を続けていただき、またもっともっと周りの人間に認知され、大規模な活動になることを心より願っています。本当にありがとうございました。



「KBH ニュースレター No.72」 2015年10月10日付

#### お詫びと訂正

第11号 第三面の画像キャプションの記載に誤りがありました。正しくは次の通りです。

(誤) 村田充八 → (正) 村田義人

読者の皆さまにお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。岩村義雄

### 炊き出し用にコメ、野菜、水などのご協力を感謝します

五百井正浩(真宗大谷派災害対策本部ボランティア委員長)、  
横山豊希(天台宗無障金剛院住職)、後藤由美子僧侶(第20次)、フードバンク関西、  
コスモ、耕支援グループ(岸本豊、山本勝、上原俊基、河合敏行)、森岡忠義、橋元治、  
岡部和香、あぶふあーむへ 炊き出し班長 橋元留美子

#### 編集後記

昨年は東北ボランティアに参加したメンバーと兵庫県丹波水害、兵庫県青少年認定制度、今年2月にはデュオ神戸で神戸国際支縁機構の出版を担当し、他の団体とも交わることができました。第56次(9月)に石巻で傾聴ボランティアをしました。いろいろなお話を聞き、人に思いやりを示す自分の姿は、中学教員を志している動機とつながります。阪神・淡路大震災だけでなく、東日本大震災、丹波水害の証言記録を通じて「次世代に自分の経験を語り継ぐ」こと、教壇に立つ日に活かしたいと願っています。口先だけでなく行動のたいせつさを学んでいます。 西田 怜奈



2014年、石巻市祥心会の5つの施設を訪問  
庄司慈明石巻市議員は祥心会に案内。  
三木晴雄氏(ミヨシ石鹸株式会社)提供のクリスマスケーキを5か所の施設や高齢者、孤児たちに提供。



2014年石巻市在住のフィリピン人たちの国際交流

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,000円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

・郵便振替 口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱東京UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863

神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には必ず『国名』と『地域』と書き添えてください。

#### (社)神戸国際支縁機構

##### ・ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

##### ・被災地への支援物資もお願いします。

##### ・年会費をお願いします。

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。  
事務局長 本田 寿久